

次代に責任!

～愛されるまち神戸を「西区」から～

神戸市議員

西区

いつも地域に

かじ幸夫

市会報告

Vol.10
2024



事務所: 神戸市西区王塚台7丁目105-2
TEL&FAX 078(924)0151
E-mail kajiยุกio2019@gmail.com

編集・発行/こうべ未来市議員団

〒650-8570神戸市中央区加納町6-5-1 TEL 078 (322) 5844 FAX 078(322)6161

令和6年度神戸市当初予算について

2月15日、神戸市当局より「令和6年度神戸市各会計予算案並びに関連議案」が提示されて以降、こうべ未来市議員団として予算特別委員会への対応や、関係各局審査への対応など協議・確認しました。

予算審査 スケジュール

- ・2月21日・22日 会派代表質疑
- ・2月26日～3月6日 3つの分科会に分かれて局別審査
- ・3月11日 総括質疑
- ・3月13日 意見表明、意見決定
- ・3月25日 本会議にて議決



令和6年度神戸市当初予算の概要(ポイント)についてはこちら

こうべ未来市議員団 主な質疑テーマ

すべての局室について個別に審査される「分科会審査」については、会派のメンバーで担当を決めて対応し、それぞれの議員が会派方針のもと、市民目線を大切に質疑・提案しました。(一部抜粋)

1. 行政手続のスマート化 (よこはた議員)
2. 高校生等の通学定期券補助 (伊藤議員)
3. 教職員の人材不足 (やの議員)
4. 交通事故軽減に向けたカラー横断歩道の導入 (木戸議員)
5. ごみの減量化 (木戸議員)
6. 地域団体の高齢化に伴う対応 (川内議員)
7. 震災から30年を迎える神戸ならではの文化芸術面での発信 (諫山議員)
8. 障がい者向けグループホームの整備 (かじ)

2024年
3月4日

予算特別委員会第2分科会 (福祉局審査) (一部抜粋)

質疑模様
動画配信



1. プレフレイル対策

かじ幸夫 フレイルについて、健康と要介護の間の状態と定義され、早く気づいて栄養・運動などに取り組みれば、健康寿命を延ばすため最大限の効果が出るとされています。次年度予算に、生活機能の低下が見られる要支援者等を対象とした、フレイル改善のための通所型サービス実施箇所が14か所から39か所に大幅拡大するとされています。具体的に実施場所や内容について、どのように運営されるのか伺います。

若杉副局長 要支援1、2の方を対象に、栄養・運動などバランスよく取り入れた複合型プログラムを週1回実施し、これを6か月間提供する事業です。場所は、文化センターや地域福祉センターなど、生活圏域から近い場所で実施箇所数の拡充を予定しています。事業については、通所介護事業所や民間企業など運営事業者に担って頂き、プログラム内容としては、栄養・口腔の専門講話など考えています。

かじ幸夫 開催場所について、地域福祉センターとありました。基本的には事業者が選定するとのことですが、市内の各小学校区に設置されている地域福祉センターは、通所型サービスの開催場所にふさわしいと思っています。センターを活用されるよう選定事業者に提案・助言頂きたいと考えますがいかがでしょうか。

若杉副局長 実施場所について、事業者から提案頂くのが事業の枠組みですが、今後、公募説明会等のなかで、地域福祉センターを含めた高齢者が利用しやすい場所を選定頂きたい旨説明していきたい。



2. 障害福祉サービスにおける計画相談支援について

かじ幸夫 相談支援専門員について、障害福祉や障害者の権利という法的、制度的なこと、そして利用者の生活や社会参加に関すること、最終的にはそれら課題解決を図るマネジメントを含めた能力が求められています。一方で、介護におけるケアマネジャーに比べて、人材が少ないと伺っており、**高度な専門職という評価に見合った処遇改善で人材確保に努めて頂きたい**と考えますが現在の状況を伺います。



奥谷副局長 計画相談のための相談支援専門員が足りておらず、神戸市としては、人材確保、定着支援、そして特に少ない障害児支援への計画相談の補助金など創設しました。これら事業所に周知し活用頂くことを通じて、相談支援専門員の体制を強化していきたい。

かじ幸夫 ケアマネジャーと相談支援専門員の数に大きな乖離が出ています。各区の配置状況や、専門員1人当たりの対応数など把握し、相談支援専門員がどれぐらい必要なのか検証のうえ、さらなる人材の確保に努めて頂きたい。

3. グループホームの整備について

かじ幸夫 重度の障害のある方を多く受け入れる、日中サービス支援型グループホームの定員数が非常に不足しています。特に市東部においては、用地取得にかかる経費の負担が大きいこと、施設規模の面で一定の広さの用地が必要ということから、市有地を活用した整備を行うとあります。その整備スキームについて伺います。



森下局長 市営住宅等の跡地、公共施設の跡地、区画整理の事業地などが想定されますが、現在庁内で協議中であり早急に決めたいと思っています。今後、夏頃には場所を選定し、秋頃に公募、開設としては令和8年度中を目標としたいと考えています。

かじ幸夫 障害者の親なき後の対策として、**対象者が人として幸せに生きていくための住まいをどうするか**という課題に対して、市東部での整備に続き、さらに**全市的に拡充されるよう求める**とともに、その手法として、市有地を含めあらゆる既存の施設を有効活用する視点で整備を進めて頂きたい。

2024年
3月11日

予算特別委員会総括質疑 (一部抜粋)

質疑模様
動画配信



1. 令和6年度の人事委員会勧告を想定した対応について

かじ幸夫 神戸市職員の給与水準については、人事委員会において春闘結果を受けた民間事業所の賃金実態を精確に調査し、官民比較を受けて勧告されます。今期の春闘結果を受け引き上げ勧告が想定されますが、正規職員だけではなく、特に会計年度任用職員など非正規職員も含めた職員の給与改善に対する現時点での考えを伺います。

久元市長 本市としては、これまでも人事委員会勧告を尊重する立場を取っており、令和6年の勧告内容は、民間給与の

動向が反映されたものとなると思われますので、令和6年度の給与改定についても、引き続き人事委員会勧告を尊重し、国及び他都市の給与改定状況を勘案して対応していきたいと考えています。

かじ幸夫 特に会計年度任用職員など、**非正規職員の給与水準の改善に留意**頂きたいこと、加えて、神戸市の委託事業や指定管理事業についても、委託している事業者の労務状況を意識した対応を要望しておきます。

2. 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会について

(1) 輸送に関して

かじ幸夫 令和6年5月に開催予定の「神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会」は、東アジア初の開催であり、約100の国と地域から、選手・関係者あわせて2,300人余りの参加が予定されています。パラスポーツの普及、発展、そして**障がいや多様性への理解を深める機会**であり非常に意義のある大会と捉えています。そのなかで、選手及び関係者の輸送について、特に車椅子利用者に関して、利用ニーズに応じた輸送力の確保として、総利用台数や個別の利用区間、乗車・降車時間を正確に把握したうえで対策が取られているのか伺います。

久元市長 車椅子選手の皆さんについて、対応する車両の確保状況として、総合運動公園周辺の交通調査、大型リフトバスやノンステップバスを備車しての実地検証など、必要な輸送車両の確保は終わっています。安全性、定時制、そしてそれぞれのニーズに合った対応が求められると考えており、選手・関係者が安心して競技に集中できるよう、しっかりと輸送体制を確保してまいります。

かじ幸夫 車椅子の方がバスを利用される場合、通常であれば乗務員が乗降補助して対応されますが、大会期間中については、選手・関係者が安全・安心に乗降頂けるよう、お手伝いできるスタッフが別途配置できないかと考えますがいかがでしょうか。

小原副市長 バス乗降場所における各国選手団の乗降サポート、また、総合運動公園駅前から競技会場、練習会場までの案内サポートを行う輸送サポートボランティアを配置する予定です。すでに座学研修を開始しており、実際のバス車両を使用した実地研修も予定しています。

かじ幸夫 輸送サポートボランティアの方を含め、選手・関係者の皆さんが安全・安心・快適に来場されるよう万全の準備をお願いします。指定管理事業についても、委託している事業者の労務状況を意識した対応を要望しておきます。

(2) PR、広報について

かじ幸夫 大会メイン会場は総合運動公園であり、神戸市営地下鉄として期間中の安全輸送はもとより、あらゆるニーズに応えるべく準備がされていることと思います。一方で、PR、広報という観点でさらに対応できることがあると感じます。例えば、ラッピング車両や駅構内の広告ジャック、車内広告やデジタルサイネージなどを通じ、さらなる大会の機運醸成に努めて頂きたいと考えますがいかがでしょうか。

城南交通局長 PRに関しては、カウントダウンボードの設置や、各駅のデジタルサイネージでのPR、車両設置のトレインビジョンでPR動画の放映など行ってきました。今後も、ポスター設置や車内広告スペース、車両へのボディステッカーをあしらった特別車両の運行など、交通局として持てる広告媒体をフルに活用し、大会開催に向けて一層の機運醸成を図っていきたくと考えています。

3. 多井畑西地区の都市型里山について

かじ幸夫 都市局においてアクションプランが策定されて、放置竹林対策や里山保全・活用の活動が進められています。森林・里山の整備については、都市局だけではなく関係各局が連携し積極的に成果を共有活用すべきと考えています。とりわけ環境局においては、昨年、北区山田町の里山が自然共生サイトに認定された生物多様性の回復を図るモデルになり、これを多井畑西地区にも横展開できるのではと期待しています。里山の再生について、黒田副市長をトップとする**各局横断プロジェクト**として強力に推進していくべきと考えますが見解を伺います。

黒田副市長 里山は、長年にわたって人が樹木を伐採、再生させてきた場所ですが、生活様式の変化によって人の手が入らなくなったことで荒廃が進んでいます。森林として持続しなくなることが危惧される状態です。多井畑西地区では、アクションプランを策定し、竹林整備などを行いながら持続可能な都市型里山づくりを目指しています。里山を持続させるため、森林の整備と木材などの資源活用という資源循環が重要です。この地域における各局の取り組みを私が俯瞰的に捉え、関連づけや目標設定など次の行動につなげていくことで、里山の持続と再生に取り組んでまいります。

4. 新規採用教員の育成について

かじ幸夫 令和4年度の常任委員会で、4月1日に採用辞令を受け取り、1週間ほどで現場配属、そして同時にクラス担任を担当するという慣例に対して、他の職種に比べてあまりにも酷ではないかと訴えました。その解消策として、採用予定者について採用前の3月頃から研修を行い、採用後の現場配属、クラス担任へつながる準備期間を確保できないか提案したところ、令和5年度の採用予定者から、対応可能な方について2月からの採用前研修が実施されることとなりました。研修受講者や学校現場などに**採用前研修**について伺ったところ、**現場着任に向けての心構えや授業づくりなど事前に学ぶことができた**として、とても好評だったと伺っていますが、教育委員会としてこの研修についてどのような効果や課題があると考えているのか、また、今後研修内容の拡充などの考えについて伺います。

長田教育長 採用前研修については、昨年度から実施し、今年度も現在研修中です。対象者の9割を超える約320人が参加し、遠方の居住に対応するべく動画配信によるオンデマンドでの受講にも対応しています。研修の手厚さ、参加者の規模で全国的にもあまり例を見ない充実した研修だと思っています。昨年度の受講教員からは、授業づくりの実践や教員に

なる心構え、また相談しやすい同期の仲間ができて、受講してよかったという声を多く頂いています。教育委員会としても、有用な研修と捉え、今後、現場研修を増やすなど、採用前研修のさらなる充実に努めることで、優秀な人材の確保と、若手教員の育成に取り組んでまいります。

かじ幸夫 さらに一歩進める提案として、採用前の「研修」ではなく、**2月1日採用あるいは3月1日採用とし、より早い段階で現場へ配属することができないか**と考えます。採用予定者には、さまざまな事情や状況があると察しますが採用予定者のなかで可能な方について、早期採用に取り組んでもらいたいと考えますが見解を伺います。

長田教育長 採用日の前倒しについては、可能であれば前倒し採用をしたいと考えています。来年度以降も全国的な教員不足が続くことが予想されるなか、前倒し採用について可能な限り積極的に対応していきたいと考えています。



かじ視点



働くことの対価は いくらが適正か

2024年民間春闘では大手企業を中心に、定期昇給を含む給与改定が一時金について、大幅な増額改定がされています。失われた30年として実質賃金が上がらなかった状況を受けて、労使が協議してきた結果であると感じます。大手企業の流れを受けて、物価高騰と表裏一体ではありますが、適正価格に向けた価格転嫁による収益改善も背景としながら、**中小企業や地場産業においても給与水準が引き上げられることを期待**しています。予算特別委員会総括質疑でも取り上げましたが、特に**非正規職員の水準引き上げ**や、神戸市が委託している事業に従事されている方の給与水準について注視していく必要を感じています。例えば、**神戸市が直接発注する事業について「安ければいい」という視点だけではなく、そこで働く人(市民)の労働条件まで意識して事業を委託していくべきと考えます。**

教員不足は いつまで続くのか

慢性的な教員不足への対応として、神戸市では教員の確保にこれまで様々な対策を行ってきています。令和5年度、6年度ともに正規教員について積極的な採用を行ったほか、他都市の離職者を対象とした特別選考や、あるいはペーパーティーチャーなどを対象とした教員スタートプログラムなど、即応性のある取り組みについて評価しています。

予算特別委員会総括質疑では、新規採用教員の採用時期前倒しを提案しました。新規採用予定の**若手教員**について、2月や3月に採用し、**十分な研修に加え、早い段階で現場着任させること**で、しっかり準備したうえで新年度子どもたちを迎えることができるかと考えます。教員不足解消は道半ばと感じますが、新たに神戸市に採用された若い教員の離職を防ぎ、**笑顔で子どもたちに向き合える環境を整えること**を引き続き求めていきます。